



第一三共株式会社



WebEx を使って会議資料を共有することで、議論のポイントが明確になり、コミュニケーションギャップが少なくなりました。

— 第一三共株式会社 研究開発本部 プロジェクト推進部 第一グループ 川北 由布子 氏

WebEx Meeting Center で、国内、海外に 点在する各部署のプロジェクトを推進



業種
医薬品

WebEx アプリケーション Meeting Center

概要

第一三共株式会社は国内外のさまざまな拠点と会議を行う際、資料の共有を目的に WebEx を導入した。それぞれの拠点にしながらもプレゼンターが発表している資料をリアルタイムで共有化できることで、よりスムーズな会議進行が実現できた。また、会議で決定した合意点や修正箇所等をその場でスライドに纏め会議中に確認することで、業務の効率がアップした。

第一三共株式会社について

業務内容

医療用医薬品の研究開発、製造、販売等

本社所在地

東京都中央区日本橋本町 3-5-1

役員・従業員数

15,358 名（連結：2007 年 3 月 31 日現在）

WebEx 導入：2003 年 1 月

第一三共株式会社は、日本発の Global Pharma Innovator の実現のために、医薬品事業に特化した高収益型かつ成長性を持つ「プレミアム型企业」を目指しており、「血栓症」「糖尿病」「癌」「自己免疫疾患/関節リウマチ」の4疾患領域を中心に、First in Class、Best in Class を目指した製品開発を推進している。

導入前の課題

第一三共株式会社の研究開発体制は、国内外の様々な部署から選ばれたメンバーから構成される「開発プロジェクトチーム」を結成し、グローバルな開発展開を推進している。プロジェクト推進部は、プロジェクトの計画立案・進捗管理を行っており、頻りに TV 会議または電話会議システムを利用した会議を設定しメンバー間のコミュニケーションを図っている。

「一番の問題は、会議時の資料共有が難しいことでした」と川北氏は言う。事前にメールで参加者に資料を送り合い、プレゼンテーションの際に「今は 5 ページ目のスライドを見ています」といったように、適宜確認する必要があった。このように別々の拠点にいる場合、TV 会議や電話会議システムで音声共有はできるものの、各自が当日の会議資料を準備しなければならない点は、会議運営上において非効率的であった。特にプレゼンテーション終了後の質疑応答では、該当する部分がどこにあたるのか分かりづらく、コミュニケーションが英語の場合は更に混乱を招くこともあった。また、会議直前に資料が届くことも多く、全員が同じ資料を準備しているか会議開始前に確認することも、業務の負担となっていた

導入の結果

既に海外のグループ会社で WebEx を利用しており、便利なツールであるとして紹介されたことをきっかけに WebEx Meeting Center の導入を検討した。利便性のみならず、セキュリティの確保が最も重要な点であったが、サーバー上にデータを残さない仕組みや、会議参加時のパスワード設定機能などのセキュリティと信頼性の高さが、WebEx を導入する決め手となった。

現在行っているグローバル会議は同時通訳を利用することも多く誰の発言かを特定するのは電話会議では難しい。そのため、テレビ会議システムで発言者を特定し、WebEx Meeting Center で資料の共有を図るスタイルが標準となった。PC にインストールされていないアプリケーションで作成された資料も WebEx Meeting Center を通じて共有できるため、会議資料作成も自由にでき、また、インターネットさえ繋がる環境であれば手軽に参加できる事は利用者の負担を大きく軽減した。

導入後の効果

まず、問題となっていた資料の共有については、資料のどの部分を示しているのかが明確になった。さらにポインタツールを利用し該当箇所を指し示すことにより、よりスムーズな会議進行が実現できた。資料の準備についても、以前は会議が始まる前までに全参加者に資料をメールで送らなければならなかったが、導入後は WebEx のサイト上に資料をアップロードするだけなので、会議 10 分前に資料の差し替え等が発生しても十分対応できるようになった。

WebEx は会議で決定した事項や合意した内容の確認にも役立っている。会議の最後に合意事項や修正箇所等をまとめた資料を参加者全員で共有しその場で確認・了承してもらうこととした。会議終了後に作成された議事録だけではその後の議論に行き違いが生じてしまうこともしばしばあり、「過去の曖昧な記憶の中での議論が進められてしまうのが一番よくないので、記憶が新しいうちに重要事項を確認できることは大きなメリットです」と川北氏は言う。更に、部署間およびグローバル間などでの会議だけではなく、日常業務での簡単な打ち合わせにも WebEx が活用されている。事前にスケジューリングせずに、即座にミーティングを開始できる機能を利用して、簡単な打ち合わせなどを少人数で行うことも多い。その他にも、外出先からインターネットに接続して会議に参加できることや、チャット機能で会議中に特定の参加者を選択してメッセージを送信し、個別に意見を求めるなどの使い方ができるところにも便利さを感じている。

「
会議で決定した重要事項をWebExでその場で参加者全員と確認や了承ができるのは大きなメリットです。」

— 第一三共株式会社 研究開発本部 プロジェクト推進部
第一グループ 川北 由布子 氏

今後の展開

第一三共株式会社は「日本発の Global Pharma Innovator (グローバル創薬型企業)」の実現を目指している。世界各国の価値観を尊重しつつ、グローバルに企業活動を展開し、革新的医薬品を継続して創り出し提供する企業となることを目標として研究や開発に励んでいる。今後は、日米欧のみならずより広範囲な地域を対象とした研究開発や情報提供を円滑に進めるために、WebEx が益々活用されるであろう。今後の展開には大いに期待したい。

ハイライト

- WebEx で会議の資料を共有することにより、議論のポイントが明確になり、コミュニケーションギャップが少なくなった。
- 会議で決定した重要事項を参加者がその場で確認、了承できることにより、会議終了後の曖昧な記憶をたどっての行き違いがなくなる。
- スケジュールなしで、即座に会議を開始できる機能を利用して、日常業務での簡単な打ち合わせにも WebEx を活用。